

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
平成26年度 第1回 博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規程に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されております。

委員は13名で、任期は2年となっております。うち1名は一般公募により選出されています。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催されています。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

平成26年10月17日（金）14時00分～15時30分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

安藤正光委員，加茂明委員，木村洋美委員，椎名操委員，関実枝子委員，染川香澄委員，中川輝夫委員，筈谷美佐委員，水嶋英治委員，安節子委員，山口武平委員

※ 事務局出席者

菅谷博館長，坂巻喜好副館長，関勤管理課長，小幡和男副参事兼企画課長，服部仁一教育課長，滝本秀夫資料課長，石田容之主任学芸主事，小池涉首席学芸員，国府田良樹首席学芸員，武田順主査，荒井寿紀係長，沼尻耕一郎係長，内方陽子主任，鈴木肇主事

5 議事概要

(1) 議案説明 (事務局)

議題

- (1) 平成26年度～平成27年度博物館協議会委員について
- (2) 平成26年度前期事業の報告について
- (3) 平成26年度後期事業計画について
- (4) 開館20周年記念事業について
- (5) 進化基本計画「中期計画2015」について
- (6) 予算・決算などについて

(2) 質疑・意見交換

○ 議題(1)～(6)について

A 委員：

菅生沼の近くに住んでいる。菅生沼は昔から自然豊かな地域であり、自然環境を学習する博物館の立地条件はとてもよい。

博物館の存在がどの程度学力向上に貢献したか、データがあるだろうか。

事務局：

学力効果に直結した評価はないが、博物館で実際に標本や自然に触れることが、大変有意義な機会である。その効果を数値として測定するのは難しいが、知識を得ていく上で効果があるよう期待している。

事務局：

児童生徒全国学力テストでは、茨城県は国語・算数の点数は低かったが、理科の点数は上位である。

議長：

世紀の発見をしたジュニア学芸員も出ていることだし、効果は出ていると、自信をもっているのではないかと。

B 委員：

本日も団体のバスがたくさん来ており、来館者で賑わっているようだ。中1フリーパス

も成果が出ているようで、喜ばしいことである。中1フリーパスで来ると特典としてミニ図鑑がもらえるようだが、これは中1フリーパスで来た人のみなのか。そもそもどんなものなのか。

事務局：

ミニ図鑑は、中1フリーパスで来た人に入口で渡しているものである。効果的な見学の方法についての情報が載っている。13シリーズあり、当館が開館時から積み上げてきたものである。他の人も希望があれば渡しているが、中1フリーパスで来た人には、好きなものをあげている。

C委員：

中1の息子がおり、中1フリーパスを利用させていただいている。中学生になると土日も部活動などで忙しいが、年1回行くことで次年度も使えるとなれば、行っておこうと思う。子どもが小学校のとき、博物館から講師で来てもらっていたこともある。宿泊学習で、夜の星の観察会などは大変楽しかったようで、家でも興味を持っている。学力だけでなく、こういった興味関心を持たせてもらい、大変ありがたく思っている。

D委員：

資料の中に、博物館の情報源として、“人から聞いた”が一番多いが、メールやSNSを使う中学生にとって、中1フリーパスはとてもよい宣伝効果だったのではないかと。20周年事業の一環とのことだが、今後も続けるのだろうか。

筑西市で開催したリーダー研修会するとき、博物館から講師として来ていただいた。このとき、この先生がルールに従わなかった子どもに対し、厳しく叱ったことがとても印象的だった。本当に必要なときは叱ることも重要な教育だと、実感した。

中川志郎蔵書コーナーを拝見した。中川さんの唱える親子学に大変興味をもった。子どもの育ち方には、遺伝・学習・教育の3要素があるという。この学習の部分に、親子関係が重要であるとあるが、博物館で、例えば中1フリーパスを配った、中1という多感な時期の子どもたちに、この親子関係に関する環境を提供できるだろうか。

事務局：

中川さんは、野生動物をとおして人間の親子関係をみてみようと呼んでいる。博物館で、そういった環境を提供できれば大変すばらしいことである。今後、じっくり検討していきたいテーマである。中学生は親に連れてきてもらわなければ博物館に来られないという事情も、利用が少ない一因である。中1フリーパスはそれを少しでも改善したいという思いで実施している。

E 委員：

予算が年々削減されるなか、20年間博物館運営を維持できたのは大変素晴らしいことである。

開館以来続いている博物館の刊行物 A・MUSEUM だが、20周年を機会に変わるということはあるか。例えば、トピックスなどは、もう少し自由に書いてもいいのではないか。例えば、博物館のイベントを経験後、5年後はこうですとか、参加者の体験談を書くとか。今は少し堅い感じがあるので、もう少し自由に、柔らかい雰囲気でもよいのでは。

F 委員：

今年は日本人がノーベル賞を受賞したりと、理科学教育の成果が表れた年だった。その一環として、博物館が担っている役割も大きい。シニア講座が始まることについて、定年した人が、認知症になるケースが多いと聞くが、興味をもって学ぶ場があること、文化的な知識を得る場があることは、大変すばらしく、意味のあることだと思う。また、毎回新しい企画展を開催する学芸員の方々の努力は大変すばらしい。前回は述べたが、「リケジョ」が増えることも期待したい。今後も博物館の活動に期待する。

G 委員：

自然博物館の利用者が増えれば、つくばエクスプレスの利用者も増える。企画展のポスターや中吊り広告の掲示などで、今後も博物館を応援したい。

友の会の会員が減っている理由は何か。

事務局：

友の会は、企画課でその事務を手伝っている。友の会に入ると、博物館の行事に優先的に参加できる、博物館の情報が定期的に送られてくるなど、博物館を積極的に利用できる特典がある。友の会の会員は、家族会員が主であり、親2人に子2人という構成が多い。家族会員の会費は年間4,000円である。これに対し、5,6年前に博物館の年間パスポートが開始され、これは大人1,540円、高校・大学生1,030円、小・中学生310円となっている。友の会会員は、子どもが小1、小6、中学生、と成長するに伴い、辞めてしまう例が多い。そして、年間パスポートとどちらが安いのか、という観点で比較されてしまい、友の会会員が減っている要因の1つとなっている。

また、博物館自体の問題としては、常設展や、施設の老朽化が進み、新鮮味が減っていることも否めない。今後も、友の会と協力して、新たな特典の取り組みや、魅力を発信していく努力をしたい。

H 委員：

幼稚園では、毎年必ず博物館に来館する。個人的に孫も連れてきている。博物館の魅力

は、駐車場が無料であること、また幼稚園等の団体利用は無料でできること、立地も近いこと、新しい企画展も楽しみなこと、施設もとてもきれいで、小さな子どもたちでも安心して利用できることである。小さな子どもたちの自然への興味付けの窓口となっており、とても素晴らしい施設と感じる。

I 委員：

都内で会議があったため、今日つくばエクスプレスを利用して来た。秋葉原から守谷まで30分で、とても都内に近いことを実感した。県外利用が多いのもうなずける。また、現在開催している企画展「新茨城風土記」は、他県出身の私でも、茨城について学ぶ大変よい機会となった。

茨城県の宿命だが、水戸も、北茨城も離れていて遠い。筑波大学は、茨城大学に比べ地域貢献度が低いと言われており、筑波大の地域貢献度をPRしてほしいと言われている。博物館も、学芸員も熱心で、大変質も高く、都内からの利用も多いということで、もっとPRしたほうがよい。博物館の運営には、予算に関する県の理解が必要と思う。茨城県は、県域放送としては全国一の視聴率があり、知事も副知事も、県域放送を録画して見ていると聞いているので、ぜひ、県域放送を利用してPRしてもらいたい。

J 委員：

中1フリーパスは大変すばらしいアイデア。毎年の贈呈式も、地域を変えてやればPRになると思う。今年は茨城新聞に大きく取り上げられ、とてもよい宣伝効果だった。ところが、子どもたちは遠足等で利用するので博物館を知っている場合が多いが、親が知らない場合が多い。親の手元に企画展の案内が届くようにするなど、教育委員会を通じて広報する手段があるので、是非利用してもらいたい。

また、中学生は来館する手段がないとのことだが、企画展ごとに、夏休みや冬休み中にバスツアーを企画したらどうか。親が働いていて連れてこられなくても、中学生が自分たちでも来ることのできる手段を考えてはどうか。

議長：

先日、茨城県が魅力度最下位という報道があった。これに対し、茨城県には全国1位のものがたくさんあるとPRするユーチューブがあったが、面白いので見てほしい。

自然博物館は昨年度入館者が850万人ということだが、この貢献度は非常に高い。右肩下がりの予算の総計の中で、850万人で割って、1人あたりの受益者負担をざっと計算すると、500円以下である。これで850万人が育ったと考えると、とても効率的なお金の使い方だと思う。11月に姉妹館であるロサンゼルス郡立自然史博物館からも職員が来館するとのことだが、自然博物館には、この他にも、内蒙古博物院、韓国国立生物資源館、ベトナム国立自然博物館等との交流があるのだから、彼らにミュージアム大使とな

ってもらって、国際的にも博物館をPRしてもらってはどうか。こういった人脈や、インターネットなども使って、博物館を効果的に宣伝していくことが必要と思う。